

星の王子さま

作 サン＝テグジュペリ Saint-Exupéry

訳 内藤濯(岩波書店刊)

構成・演出 浅野佳成



舞台芸術等総合支援事業 (学校巡回公演)

独立行政法人 日本芸術文化振興会

令和5年度 学校巡回公演事業

小学校・中学校等において文化芸術団体による実演芸術の巡回公演を行い、子供たちが質の高い文化芸術を鑑賞・体験する機会を確保するとともに、子供たちの豊かな創造力・想像力や、思考力、コミュニケーション能力などを養い、将来の芸術家や観客層を育成し、優れた文化芸術の創造に資することを目的としています。ワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。また、実演においては、子供たちが参加できる工夫を行います。

『星の王子さま』をみる皆さんへ

俳優(キツネ役) 工藤順子



でしまう時があります。そんなとき私は、この芝居を一緒につくったみんなの声や笑顔、その風景を思い出し、振り返るようにしています。すると、なんだか勇気がわいてくるのです。

みなさんも、心がきりきりして、誰かのことを考える時間も、気持ちもなくしてしまうことがあるかもしれません。でも、大丈夫です。王子さまは、いつでもそばにきて、笑いながら元気に優しく、あなたの心に話しかけてくれます。

王子さまは旅をしながら、疑問を感じたり、不思議に思ったことを「どうしてだろう?」「なぜだろう?」と自分や人に問いかけます。そして、「心で見なければ、大切なことは目には見えない」という言葉に出会います。

みんなも、そんな王子さまと一緒に「自分の大切なものってなんだろう?」と、旅をしてくれたら嬉しいです。そして、ひとりで寂しい旅をする王子さまを励ましてあげてください。自分の夢、友だちや家族のこと—、みなさんが見つけた「大切なもの」は、きっと自分や誰かにとっても、自由に未来へ羽ばたくための勇気と希望になると思います。たまに私は「大切なもの」を忘れ落ち込んで

東京演劇集団風 — 未だ形を採らない豊かさを求めて

1987年に創立。この名前には「自由に風のようにものをつくる」という思いが込められています。1999年には、東京・東中野に専属の拠点劇場〈レパートリーシアター KAZE〉を建設。

劇作家ベルトルト・ブレヒトや現代劇作家マテイ・ヴィスニョックなどの作品を中心に、現代劇を上演しています。2003年からは、国際演劇祭を開催し、海外アーティストとの交流や共同制作も行なっています。

また、中学生・高校生を対象とした巡回公演にも力を注ぎ、ブレヒト作『肝っ玉おっ母とその子供たち』、ヴィスニョック作『ジャンヌ・ダルク—ジャンヌと炎』をはじめ、6作品が各地での上演活動を続けています。特に創立以来、上演を続けている『星の王子さま』は劇団の代表作です。2017年には創立30周年を迎え、記念企画として、レパートリー作品と新作の上演を2年間にわたり行いました。

2019年からは誰もが一緒に楽しめるバリアフリー演劇の上演を開始しました。

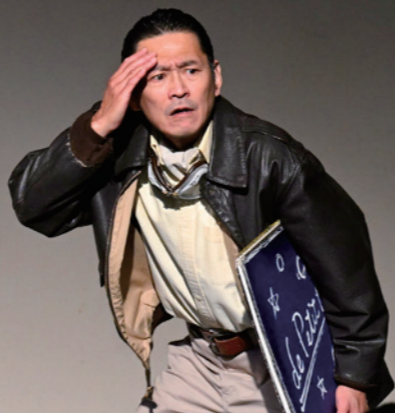


東京演劇集団風

東京演劇集団風
Tokyo Theatre Company KAZE

〒164-0003 東京都中野区東中野1-2-4
Tel.03-336 3-3261 [代] Fax.03-3363-3265
E-mail: info@kaze-net.org URL: http://www.kaze-net.org/

Le Petit Prince



星があんなに美しいのも、目に見えない花がひとつあるからなんだよ——

東京演劇集団風の ミュージカル 星の王子さま

キャスト

王子……………白根有子
飛行士……………緒方一則
キツネ……………工藤順子
花……………渋谷愛
へびなど……………栗山友彦 ほか

スタッフ

音楽……………八幡茂
演出助手……………江原早哉香 / 西垣耕造
舞台美術……………松井のみ
照明……………坂野真也
音響……………酒見篤志
衣裳……………出川淳子
振付……………郡行雄

ちっぽけな星にひとりで住んでいる王子さま。
ある日、その星にきれいな一輪の花が咲きます。
王子さまは喜んで、花と仲良く暮らしますが、ある時ちょっとしたことで
けんかになってしまいます。

そして王子さまは、自分の星を飛び出して、星を巡る旅に出かけます。
王子さまは、さまざまな大人たちと出会いますが、なかなか自分が
住みたいと思う星が見つかりません。

最後に地球にやってきた王子さまは、砂漠で飛行士と出会い、
一緒に旅を続けます。飛行士や一匹のキツネと友だちになることを通して、
誰にでも“かけがえのないもの”があることを知った王子さまは、
花が自分にとって大切な、守らなければならない存在だと気がつきます。

そして成長した王子さまは、飛行士と地球に別れを告げて、
花のために自分の星に帰ろうと決心するのです。

フランスで生まれた作者サン＝テグジュペリは、1943年、第二次世界大戦の
さなかに、この小さな少年の物語『星の王子さま』を書きました。
大きな戦争の時代を経験したサン＝テグジュペリは、この作品に、
“物事の奥深くにある真実を心で見たい”“思い出や美しいものを

感じる心を大切にしてほしい”という想いを込めています。
懸命に生きる小さな王子さまの勇気と、美しさや、はかなさが
描かれているこの物語の世界を大切に、
『星の王子さま』を上演しています。

“日本のすべての子どもたちへ”

東京演劇集団風の『星の王子さま』の上演活動に共感した
サン＝テグジュペリの遺族から日本の観客に届けられたメッセージ

日本の小さな子どもたちよ、あなたがたの勇気は、この星ぜんたいにとってのお
手本です。太陽がまた輝きだすという希望を失わないでください。あなたがたは
わたしたちからはあまりに遠く離れているので、この目であなたがたを見るこ
とはできません。でも心の目で見る事ができるのです。そして言わせてくださ
い。星の王子さまはあなたがたとともにいて、あなたがたを助けてくれます。彼
は世界のすべての子どもたちの友だちです。彼はあなたがたの友だちなのです。
——心からの友情を込めて

フランソワ・ダゲイ François d'Agey

(サン＝テグジュペリ財団理事長 Succession Antoine de Saint Exupéry)

